

園と家庭との連携

—個人的なかかわりを中心に—

高月教恵 藤井伊津子

(新見公立短期大学) (順正短期大学)

はじめに

筆者は、先の研究¹⁾で、“好きな遊びをしている”3歳児と5歳児の行動観察記録を中心に、子どもの主体性の育ちと教師のかかわりについて考察した結果、子どもの主体性の育ちは“自己充実”と“友達に自分自身が認められたこと”が大きなきっかけになっていることが明らかになった。子どもの主体性の育ちへの教師のかかわりとしては、“環境構成”と“子どもといっしょに遊ぶ”ということを通して教師自身が幼児の生活を誘導することが大きなポイントになると考えられる。さらに、4歳児の行動観察記録と園と家庭との個人的なかかわりの記録を中心に、子どもの主体性の育ちと園と家庭との個人的なかかわりについて考察した結果²⁾、母親と教師が話し合いや連絡帳や電話で個人的にかかわることによって、教師は母親を理解し母親に子どもの様子を伝え、そのことによって教師と母親の信頼関係は深まり、母親の子どもを見直す態度が育っていったと言える。そしてそのことは、子どもの主体性の育ちに大きな影響を与えたと考えられる。

本稿では、M園の4歳児E男と4歳児T男の園と家庭との一年間の個人的なかかわりの記録を中心に、個人的なかかわり方について考察する。

1. 研究の目的と方法

(1) 研究の目的 担任教師の園と家庭との個人的なかかわりの記録を中心に、個人的なかかわりが具体的にどのようなになされているか考察する。

(2) 研究の方法

①場所 倉敷市M幼稚園(3歳児3クラス51名、4歳児2クラス57名、5歳児2クラス58名、教職員数10名)

②対象 4歳児E男(H7年4月23日生)と保護者、4歳児T男(H7年6月20日生)と保護者

③記録者 担任 ④記録期間H12年4月～H13年3月

⑤記録内容 園と家庭との個人的なかかわり

⑥記録整理の方法 2週間ごとに筆者を含むM園の全教師で研究会をもち、担任から出された子どもの行動観察記録や保護者との個人的なかかわりの記録について話し合いをし、園と家庭との個人的なかかわりについて整理する。

2 結果と考察

本研究での個人的なかかわりは、話し合い・連絡帳・電話があげられる。個人的な話し合いは登降園の送迎の時に立ち話として行われており、園行事としては、4月の家庭訪問と12月の個人懇談である。個人的な話し合いが登降園の送迎の時に立ち話として行われているのは、M園にはスクールバスがなく徒歩や車での送迎の形態をとっているためと考えられる。

1) 4歳児E男の場合

E男は、父・母・妹・本人の4人家族であり、幼稚園に隣接している団地に住んでいる。母親が仕事をしているため、預かり保育はほぼ毎日である。E男は3年保育の年中児である。進級当初のE男は、泣きながら登園し、母親となかなか離れられない。園では一人で遊ぶことが多く、友達とかかわって遊ぶことはない。

個人的なかかわり(表1参照)をみると、個人的な話し合いは、5月・11月・2月以外のすべての月(夏休みの8月を除く)にみられる。個人的な話し合いは、担任と母親が主であるが、4月には園長から母親、3月には祖母から担任のかかわりがみられる。担任からのかわりは、6月・7月・9月・10月・1月(5月・11月・2月以外のすべての月)にみられるが、母親からのかわりは4月・1月・3月のみである。母親からのかわりの内容については、4月は泣きながら登園するE男を送って来て「この子、幼稚園が嫌いなんです」とE男の様子を担任に説明する内容であり、1月は年頭の挨拶であり、3月はE男の降園後(終業式の日仕事で迎えができなかったため)わざわざ園に来て担任に感謝の言葉をかけるためである。そして3月の祖母からのかわりは、春休みの預かり保育の迎えの時に担任への感謝の内容である。園からのかわりの内容については、4月はE男と母親の登園の様子を見て園長が「E男ちゃんの気持ちを受け止めてあげて下さい」と母親に子どもの心を読み取るについてであり、担任からのかわりは、6月・9月はE男の園での育ちの様子を知らせる内容であり、7月は園でE男が喜んで母親のことを話した内容であり10月は預かり保育の迎えの時に偶然出会ったE男が持っているコオロギについてE男と母親とにかかわった内容であり、1月は学級懇談(母親欠席)後友達が親と降園する様子を見てE

表1 個人的なかかわり

家庭月	E 男	T 男
4	⇄● ○⇄ (園長) 家庭訪問	⇄● ○⇄ 家庭訪問
5	☆⇄	☆⇄
6	☆⇄ ○⇄	○⇄ ○⇄ ☆⇄ ○⇄ ○⇄
7	☆→ ○⇄	
9	○⇄ ☆→	○⇄ ○⇄ ○⇄ ☆→ ○⇄ ○⇄ ○⇄ ☆⇄
10	☆→ ○⇄	⇄● ○⇄ ☆→
11	☆→ ☆→	☆→ ○⇄ ○⇄
12	個人懇談	☆⇄ ○⇄ ☆→ 個人懇談 ○⇄
1	←TEL ⇄● ○⇄ ☆→	○⇄ ☆→ ☆→
2	☆→ ☆→	○⇄ ☆⇄
3	☆→ ☆⇄ ⇄● ⇄● (祖母)	☆⇄

〔注〕

話し合い…○(園から)●(家庭から)

連絡帳…☆(園から)★(家庭から)

電話…TEL(園から)TEL(家庭から)

⇄(相互連絡)、→(一方連絡)

男が涙ぐんだ様子を知らせる内容である。園行事の個人的なかかわりの内容については、4月の家庭訪問で母親はE男を心配していることを話し、担任は母親の子育ての不安を理解している。12月の個人懇談では母親はE男の育ちを喜び教師からの連絡帳に感謝し、担任は母親の気持ちを理解している。

連絡帳は個人的な話し合いの少ない時(4月・9月・12月以外)に、担任が子どもの様子を知らせるために利用されている。担任からの連絡帳に進級の最初の頃(4月・5月)には母親は返事を書いているが、7月以降は家庭からの返事はない。しかし2月の個人懇談での話し合いで担任は連絡帳に感謝している母親の気持ちを理解している。そして4月・5月以外は連絡帳を書かなかった母親が終業式の日にはE男の成長の喜びと担任への感謝の気持ちとこれからのE男への願いを連絡帳に書いている。このことから担任の一方通行に思える連絡帳ではあるが、母親にとっても重要な意味を持っていると考えられる。電話は、欠席の連絡のために一度利用されている。

2) 4歳児T男の場合

T男は、父・母・弟・本人の4人家族であり、幼稚園の近くの団地に住んでいる。母親は専業主婦である。T男は3年保育の年中児である。進級当初のT男は、登園時母親の後に隠れてなかなか保育室に入ろうとせず時間がかかり、園では常に担任の後を追い傍にしようとする。担任が誘うと一

緒に遊びに参加するが、担任がいないと友達のしていることをじっと見ている。

個人的なかかわり(表1参照)をみると、個人的な話し合いは、5月・7月・3月以外のすべての月(夏休みの8月は除く)にみられる。個人的な話し合いは、主に担任と母親で行われているが、10月には父親のかかわりもみられる。教師からのかかわりは、5月・7月・3月以外のすべての月にみられる。母親からのかかわりは4月と10月のみである。4月は始業式の迎えの時にT男の園での様子を担任に聞く内容であり、10月は運動会後父親と母親からの御礼の挨拶である。担任からのかかわりは、4月はT男が家で園のことをどのように言っているかを聞く内容であり、6月・9月・10月・12月・1月・2月はT男の園での育ちの様子を知らせる内容であり、6月・11月・12月はT男の調子がよくないので母親に家での様子や理由について聞く内容である。園行事の個人的なかかわりの内容については、4月の家庭訪問で担任は園でのT男の様子を話し、母親はT男が奇声を発することが気になっていることを話す。12月の個人懇談では、最近調子が悪いT男の様子についての話し合いやT男の育ちについて喜び合う内容やT男の奇声は嬉しいことや悲しいことの表現であると考えられるのではという内容である。

連絡帳は、4月・7月以外のすべての月に担任が子どもの様子を知らせるために利用されている。7月以外は、個人的な話し合いの少ない時に利用されている。担任からの連絡帳に、6月・9月(下旬)・12月(上旬)・2月・3月には母親は返事を書いているが、5月・9月(上旬)・10月・11月・12月・1月は母親からの返事はない。母親が返事を書いている内容をみると、6月・9月(下旬)・2月は、担任からの問いかけに答える内容であり、12月(上旬)はT男の体調が悪いために担任が園での様子を知らせ、母親は応えて家庭での様子を知らせている。3月は一年間を振り返っての担任からの内容にT男の成長を喜び担任への感謝の気持ちを書いている。しかし担任がT男の園での育ちの様子を知らせている内容の時には、母親からの返事はない。

電話は一度も利用されていない。

以上のことから、E男の場合もT男の場合も、個人的なかかわりは担任から母親が主であり、園の行事としての家庭訪問や個人懇談の話し合いや送迎時の話し合いや連絡帳は、個人的なかかわりにおいて、相互に関連しながら重要な意味を持っていると言えよう。

1) 高月教恵他:子どもの主体性と教師のかかわり(2)新見公立短大紀要第19巻 2) 高月教恵:子どもの主体性と教師のかかわり(4)紀要第22